

船舶事故等調査報告書

平成26年12月18日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第84号
事故等種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成26年3月17日 07時00分ごろ
発生場所	境港 鳥取県境港市所在の境港防波堤灯台から真方位259°1,350m付近 (概位 北緯35°33.0′ 東経133°15.5′)
事故等調査の経過	平成26年5月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	セメント専用船 <sup>ほくと</sup> 北斗丸、5,730トン 141417、第一中央汽船株式会社、第一中央内航株式会社、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 左舷船首部外板に凹損 岸壁 なし
事故等の経過	本船は、船長ほか10人が乗り組み、セメント約7,455tを積載し、船長が単独で操船に当たり、境港所在の企業の専用岸壁（以下「本件岸壁」という。）へ左舷着けで着岸作業中、潮流に圧流されたので、主機及びバウスラストを使用し、右舷錨を投下したが、平成26年3月17日07時00分ごろ、左舷船首部が本件岸壁に衝突した。 船長は、着岸した後、航行に支障がないことを確認し、荷役を終えて19時30分ごろ出港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期、潮高 約-8cm（境港）
その他の事項	本船の喫水は、船首約6.98m、船尾約7.36mであった。 本件岸壁は、境水道の南岸の東側に位置し、対岸との距離が約400mであった。 船長は、本件岸壁への着岸が2回目であった。
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、境港の本件岸壁に左舷着けで着岸作業中、潮流に圧流されたことから、左舷船首部が本件岸壁に衝突したものと考えられる。

<b>原因</b>	本事故は、本船が、境港の本件岸壁に左舷着けで着岸作業中、潮流に圧流されたため、左舷船首部が本件岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。
<b>参考</b>	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・着岸する際は、潮流による圧流を考慮した操船を行うこと。